

1 学校教育目標							
教育目標……校訓「一心」の精神を踏まえ、誠(誠実)・創(創造)・実(実践)の指針に基づいて、期待される宇部商生として21世紀を切り開いていくさらにたくましい人間を育成する。 中・長期目標……①一層豊かな創造力を身につけ、誠実、努力をもって力強く実践できる人材の育成 ②商業に関する教科をはじめ、学校で学んだ基礎的・基本的なことを土台として、将来とも自ら学びつづけ、社会の変化に主体的に対応できる人材の育成 ③これからの高齢化・国際化社会にふさわしく、思いやりの心や協調性に富み、明るくたくましく生きるために、常に情操の涵養や体力の向上に努める人材の育成 ④規律正しさや礼儀を重んじる校風の中でしっかりと基本的な生活習慣を身につけ、潤いのある人生を築くことができる人材の育成 ⑤勤労や奉仕の心を尊び、地域社会の行事にも積極的に参加するなど、心豊かな生活ができる人材の育成							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
【総務部】コロナ禍のなかで、教職員と保護者の共通理解と協働体制の確保を図り、学校行事の円滑な運営に寄与する。 【教務部】生徒の学ぶ意欲の向上と知識の活用能力を育むために、ICTを利用したわかりやすい授業展開を工夫する。また、保護者との連携のもと、家庭での学習習慣を身に付けさせる工夫を考察する。 【生徒部】各種学校行事等を通じて、互いを思いやる心や社会的絆を育むための体験活動等を行い、心の教育の充実を図る。アンケートや面談等によって生徒の実態把握を行い、校内だけでなく、外部とも連携した生徒の支援体制の構築を図る。生徒の基本的な生活習慣確立のため、教職員が統一した指導ができるよう、適宜共通理解の場を設け、継続した活動を行う。 【進路指導部】生徒の進路希望実現のため、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学の各種進路行事を計画・実施し、キャリア教育の充実を図るとともに、地域と連携し、地元で活躍する人材の育成をはかる。 【保健体育部】基礎体力の向上を図り、体育行事を安全に行う。また、生徒自身による健康管理の徹底や定期健康診断後の事後措置の取組みを徹底させる。 【ICT担当】電子化を進めるとともに、対面的な活動もできる限り実施していきたい。生徒自ら課題を見つけ、解決できるよう手助けをしていきたい。 【商業】社会への対応力(ビジネスマナーやコミュニケーション能力など)を授業や学校行事を通して育成する。平時の授業や資格取得をととして生徒の専門性を高める。 【業務改善】組織としての協働体制を確立し、効率的な業務遂行を行うことで、生徒を支援する時間の確保及び教職員の心身の健康促進に努める。 【全般】ICTの効果的な活用や授業改善等による学習指導の充実、資格取得の指導の充実により、生徒の自ら学ぶ力を育み、商業高校の生徒としての専門性を高める。また、学校行事等を通して、生徒の規範意識の醸成や主体性を育む教育活動を推進する。							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
①ICTを積極的に活用し、わかる喜び、できる楽しさを実感できる学習指導の改善・充実を図り、基礎学力の定着と資格取得を通じた専門性の深化を図る。 ②日々の学校生活の中で、基本的な生活習慣を身につけ、規範意識の醸成を図り、体験的な活動を通して、より豊かな人間性と社会性を育む教育活動を推進する。 ③地域や保護者との連携を強化し、積極的な情報発信を行い開かれた学校づくりを推進し、地元で活躍する人材を育成する。 チャレンジ目標……①気持ちのよい挨拶を行い、相手を思いやり、活気ある学校を創ろう。 ②ゴミをなくし、美しい学習環境を整えよう。 ③「小さな学校で日本一」を実現させよう。							
4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	○学校行事の円滑な運営	・教職員の共通理解に基づく学校行事の計画・立案・準備を行う。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・感染症予防に配慮しながら、宇部商生の「元気」を取り戻すべくコロナ前と同等の学校行事の実施に努力した。また、前例にとられないことな一つひとつの行事の望ましい在り方を検討し、計画・立案・準備を行った。	・宇部商コレクションを拝見したが、活気があり大変良かった。 ・コロナ感染の対策をされ、効果的に実践されていた。 ・個別の改善点があると思うが、宇部商コレクション(旧:宇部商デパート)をリアル開催したことは大きな成果と考える。来場者の期待からも、宇部商ブランドの強さをうかがうことができた。	B
	○学校とPTAとの密接な連携	・「PTA会報」(年2回発行)によって保護者と学校の連携を図る。 ・PTA総会やPTA評議員会(年3回実施)、PTA研修会等によって保護者の意向を把握し、教職員へ伝達する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・「PTA会報」を年2回発行し、PTA役員と一般の保護者、学校と保護者の連携に努めた。 ・3年振りにPTA総会を実施した。その際、授業参観やクラス懇談会、部活動懇談会、吹奏楽部のミニコンサートなどを実施した。保護者に学校の状況を知っていただき、連携に努めた。	・PTAが学校に足を運べる機会を多く作っており良いと思います。 ・コロナ禍でPTAの集まりが少なかったのが残念だった。	B
	○「豊かな心を育む教育」を推進するための適切な図書館運営や読書指導、視聴覚機器等の導入・管理	・「図書だより」を充実させる。 ・校内読書会を開催し、読書への興味を持たせる。 ・読書感想文コンクール等へ応募させる。 ・図書、視聴覚機器を整備し、利用の機会を広げる。 ・生徒が意欲的、主体的に委員会活動に参加できるように取り組む。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・「図書だより」の発行やタブレット端末を活用した校内読書会の実施など、生徒の興味関心を引く内容を取り上げた。 ・国語科と連携して読書感想文の指導を行い、夏休みの課題として実施し、地区審査で5名の作品が選ばれた。 ・本の補修やラベルの貼替など、環境整備に努めた。今後も委員会活動や広報活動を充実させ、授業や課外活動などでの利用を積極的に呼びかけたい。	・校内読書会の実施「コンクールへの応募」など、具体的な施策に取り組みされていると感じます。	B
教務部	○基本的な生活習慣の確立と落ち着いた学習できる環境づくりの推進	・朝の学習や10分間テストに取り組ませる。 ・行事等の精選を図り、落ち着いた授業に取り組ませる。 ・学習環境の整備およびICTの活用を推進する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・朝の学習・10分間テストについては、学年の協力により積極的に取り組んでいる。 ・コロナ禍により、学校行事の規模縮小や中止の措置となったが、その分授業時間も増え、じっくり取り組むことができた。 ・ICT機器の導入が進み、各教科で効果的な活用をしている。	・ICTの積極利用をされているということで良いと思います。 ・生徒さんの意欲的に取り組む姿勢が感じられた。	A
	○基礎基本の充実を図り、目的意識をもち意欲的に学習活動に取り組む態度と知識を活用する実践力の育成	・生徒が意欲的に学習活動に取り組み、知識をもとに活用できる力を養えるような授業を展開する。 ・ICTを活用したわかりやすい授業を展開する。 ・授業アンケート等を実施し、教材や授業の改善を行う。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・授業時数が増えたことにより、演習等の時間を確保することができた。そのため、応用力を身に付けさせるような授業展開ができた。 ・電子黒板等の整備により、分かりやすい授業展開が可能となった。 ・授業アンケートの活用で、授業改善を図った。	・授業アンケートの実施により、改善を図る取組は素晴らしいと思います。 ・ICT活用に関して、達成状況にも記載があるように電子黒板の導入は、分かり易い授業の実現をサポートするのに有用と感じました。また、授業参観より、タブレット端末等の活用と授業の親和性が想像以上に高く、教職員の方の努力の賜物と評価できる。	A
	○家庭や部活動との連携のとれた学習活動の促進	・家庭学習に対する意欲を高める。 ・授業の復習に重点を置いた学習課題を課す。 ・保護者の協力を求める。 ・部活動の協力を求める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・アンケートによると、家庭学習をしていると答えた生徒が昨年度よりも6.6ポイント増えた。全体の割合は47.0%とまだまだ低い状況であるが、徐々にではあるが改善されている。	・家庭学習の向上のための取組(部活時短)も検討すべき。 ・家庭学習をしている生徒が増加傾向であり、浸透しつつあると感じます。	B
生徒部	○基本的な生活習慣の確立	・挨拶運動、生活指導(講話、頭髪服装検査など)を通して礼儀正しさや、時と場に応じた身だしなみや行動がとれるようにする。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・「基本的な生活習慣が身に付いている」(校則の遵守)については、生徒の98%、保護者の96%が肯定的評価をしている。 ・朝の登校指導により遅刻する生徒も少なく、挨拶の習慣も身に付いている。大半の生徒は基本的な生活習慣が確立できているが、一部の生徒に服装頭髪等の指導を要した。 ・安心安全のために携帯電話の所持は許可しているが、複数の生徒への指導があったものの、ほとんどの生徒が本校の所持規定を守っている。	・自ら挨拶する生徒もおられ、又、服装等の乱れもなく大変素晴らしいと感じています。 ・小規模校ならではのきめ細かな指導が感じられる	A
	○問題行動の未然防止、及び問題行動件数、転退学者数の減少	・学年、教育相談、いじめ対策委員会などにおける情報共有を密に行い早期対応を心掛ける。 ・各種講話や学校行事を通じた開発的生徒指導を行う。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・いじめを許さないという生徒の意識は高まっていると思われるが、今後も教員間の連携を強め、情報共有を密にして未然防止や早期発見、早期対応を心掛けたい。 ・本校のいじめの未然防止については、保護者にあまり周知されていないように見受けられる。本校の「いじめ防止基本方針」をホームページに掲載していることやいじめに関する取組について、十分伝わっていないと思われる。PTA総会や保護者会を通じて、しっかり家庭に伝えていく必要がある。 ・問題行動の未然防止に努めてきたが、今年度は2件の特別指導を行った。特別指導後に必要に応じてカウンセリングなどを実施し、事後の継続的な指導を行った。	・「特別指導」の件数も少なく、事後のフォローも気を配っており、体制が整っていると感じます。 ・これまでの問題をしっかりと検証し、これからの糧にしていきたい。	B
	○外部団体との連携強化	・中高連絡協議会や地域社会で得た情報を職員で共有し、生活指導の場面に活かすことにより、生徒の社会性の向上に努める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・宇部、山陽小野田地区の中高連絡協議会での情報提供や、ふれあい推進委員会の活動を通して、生徒たちに社会性の向上について呼び掛けた。また、協議会や地域からの情報については、素早く情報提供することで、教職員間で共通理解を図ることができた。	・外部団体との連携を重視されており、迅速な対応が整っていると感じます。	B
	○生徒の実態把握	・各種アンケートや教育相談活動、学年支援会議、教育相談週間等を実施し、生徒の実態を把握する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・学期毎にアンケートを実施し、自由記述欄を設けて、生徒の実態把握に活用した。 ・夏休みには部活動の顧問による面談、9月には教育相談週間を設け、担任による個人面談を行った。面談で気になった情報や毎日の出欠・遅刻・早退状況等、学校生活の中で気になる生徒については、担任や学年、部活動の顧問と情報共有し、必要に応じて対応した。 ・学期ごとに実施した学年支援会議では、問題の大小に関わらず情報共有することができ、生徒の実態把握において効果的であった。	・些細なことも情報共有が図られており、学校全体で対応されていると感じます。 ・社会的に大変大きな問題となっています。これからも引き続き取り組みを強化していただければと思います。	A
	○学校不適応等の問題を抱える生徒への支援	・個別の事案に対して支援・対応策を、事例検討会や生徒支援委員会等で検討する。 ・学年やスクールカウンセラー等との連携を密にし、早期対応に努める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・積極的なスクールカウンセラーの活用が、生徒の悩みを解決する一助となった。教員や保護者も生徒への対応について助言を受け、教育活動に生かすことができた。 ・生徒支援委員会を実施し、気になる生徒について様々な方々からの意見を伺いながら、生徒の支援について協議した。 ・問題を抱えている生徒については、教育相談担当を中心に関係者が検討を重ね、支援を行ってきた。情報共有と支援の体制の構築をさらに進めていきたい。	・多方面からの支援体制があり、素晴らしいと思います。 ・社会的に大変大きな問題となっています。これからも引き続き取り組みを強化していただければと思います。 ・自校の教職員でしっかりとサポートするという意識も大切であるが、専門性が高い領域については、取り組みに記載されているような外部リソースの活用も重要と考える。	B
進路指導部	○自らの意思で進路決定ができるよう、発達段階に応じた進路指導の実施	・生徒の発達段階に応じて、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学の各種進路行事を実施する。 ・各分掌、各教科、各部活動と連携し、ICTを活用してキャリア教育の充実を図る。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・本年度はインターンシップ、進路ガイダンス、応募前職場見学等実施することができた。 ・応募前職場見学では、オンラインによるものも増加したが、特に問題なく対応することができた。	・自分で進路を決定できるよう、様々な機会を提供されていると感じます。 ・本年度のインターンシップは実施できてよかったが、職種が限られていたと聞く。来年度は幅広い職種があればよいと思う。 ・売り手市場の現況下において、生徒が希望する就職先とのマッチングは難易度が高い可能性もあるが、継続して尽力していきたい。 ・進路選択を自分事として早い段階から考えるよう、色々な機会を提供していただいていると思います。	B
	○生徒個々の適性に合った進路指導、進路選択支援のための情報提供	・進路希望調査や進路面接等を計画的に実施し、自らの適性に気づかせ、進路先の早期決定を促す。 ・生徒自ら進路選択ができるよう、必要な進路情報を適宜提供する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・進路希望調査、進路面接を計画的に実施し、進路選択の手助けができた。 ・進路の指導及び情報提供については、来年度は、もう少し体系立てて取り組んでいきたい。	・個々の適正について、自分の気づいていない良い面をアドバイスしてあげることが重要だと思います。	B

保健体育	○体力の維持向上を目指す指導の充実	・各種目のスポーツ活動を奨励し、基礎体力の向上を図る。	4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している	3	・各種目のスポーツ活動を奨励し、基礎体力の向上を図ってきたが、新体力テスト等から分析すると学年が上がることに向上しているものと、向上させられていないものが見られる。	・スポーツが盛んな学校というイメージがあります。さらなる飛躍を期待しています。	B
	○集団行動の実践	・「敏速・正確・安全」を旨とする集団行動を実践する。	4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している	3	・新型コロナウイルスの影響により、多くの制限の中での実践ではあったが、「敏速・正確・安全」を旨とする集団行動を行うことができた。 ・大きな事故や怪我を防ぐことができた。	・社会活動に必要なことであり、今後も力を入れて欲しいと思います。 ・伝統の継承がしっかりできていると思います。 ・集団行動は学部商の特徴の一つでもあるため、継続して指導していただきたい。	B
	○健康・安全教育の推進	・定期健康診断の事後措置の徹底を図る。 ・健康な心身・疾病・事故・災害についての基礎知識を養成する。	4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している	3	・定期健康診断の事後措置の徹底を図るため、月ごとに声かけを行ったり、学期ごとに意志確認を行った。100%にはならなかったが、昨年度よりも受診率は向上した。治療を行う意志を持たせる努力を継続する必要がある。 ・保健の授業や養護教員の指導で健康な心身・疾病・事故・災害についての基礎学力を養成する努力を行った。	・診断後のフォローにも力を入れておられ、良い取組だと思います。	B
商業	○ビジネスマナーの習得と挨拶の徹底	・授業や学校行事を通じ、挨拶の重要性を理解させ、日頃から実践できるようにする。 ・学部商デパート、インターンシップなどの学校行事を通じ、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上など社会への対応力を身に付けさせる。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・挨拶や礼儀の重要性に関して、授業や行事など様々な場面で指導をおこなった。また、メールの書き方やファイルの添付方法、電話対応など、実践的なビジネスマナーの指導もおこなった。 ・学部商コレクションやインターンシップなどで学んだビジネスマナーを実践する機会を設けることができた。	・挨拶、ビジネスマナーに力を入れているのはとても良いことだと思います。 ・学部商コレクションは開催できてよかった。多くの来場者の方の期待に応えるべく、質の向上をめざしてほしい。	A
	○高度資格取得への挑戦	・自ら学ぶ意欲を向上させ、学習した内容の定着、深化を図るため、各種検定試験の受験を促す。 ・学習意欲を喚起するとともに、将来の目標を明確にさせる。 ・全商3種目以上1級合格者20名以上を目指す。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	2	・各自で目標を設定し、自ら学ぶ意欲を持って検定試験を受検することで、学習内容の深化を図ることができ、また、将来の進路に向けての意識づけをおこなうことができた。 ・学習意欲喚起のためにデジタルサイネージでの検定受験奨励や検定課外をおこなったが、全商3種目以上1級合格者を20名以上出すことができなかった。	・学習意欲の喚起のため、今後も継続が望ましいと思います。 ・意欲的な取組が感じられる。 ・自分の娘が今一つだと思える。全体的にどうかかわらないが、目的意識をしっかりと持たせてやるとよいのではと思う。 ・資格取得は、将来的に就職活動にも役立つことを伝えるなど、取得に挑戦する動機づけを今後も行っていただけたらと思います。 ・この挑戦は社会に出てから、大変重要となると思います。是非達成できるように取組を強化していただければと思います。 ・検定による資格取得も学部商の特徴の一つ。従来と比較して生徒の資質低下もあるかもしれないが、こちらで継続して指導していただきたい。	B
ICT担当	○ICTを活用した教育のための環境整備	・一人一台端末を配付し、端末や電子黒板の授業での活用を促す。 ・ICT委員を軸として生徒による主体的なICTの活用を図る。 ・ICT環境を利用して、学びの質の向上と業務効率化の両方を実現する。	年度末におこなうアンケートにおいて 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 50%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答	3	・教員、生徒共に端末や電子黒板を活用することができた。積極的に活用することができた。今後、より一層活用するために、持ち帰りを含めて検討する必要がある。 ・ICT委員を中心に電子黒板の準備や端末の整備をおこなうことができた。 ・ICT環境の整備により、学びの質の向上と業務効率化が図れたとのプラス回答は68%であった。今後、質の向上の見え方が必要である。	・環境が整備され、積極的に活用されており、良いと思います。 ・充実していると感じられる。	B
業務改善	学校の組織等	・校務分掌の見直しを行い、各種業務において組織的な対応を一層推進する。 ・分掌や学年等における情報共有、連携を促進する。 ・組織的に感染症対策を実施し、安全・安心な学校運営を目指す。	分掌・学年間の連携について 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 50%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答	4	・「分掌・学年間の連携」については、肯定的意見が93.5%で、昨年度に比べ、13.5ポイント増加した。教員間で情報共有を促す時間が増え、連携が促進していることを実感することができた。今後も業務の効率化をさらに進め、教員間連携ができるよう環境整備に努める。	・肯定的意見の向上により、組織力と連携は取れていると理解。 ・さらなる取組を期待しています。	A
	日常的な業務	・ペーパーレス化を促進し、ICT機器を活用して資料の事前配付を徹底するなど、会議の効率化を図るための工夫・改善を行う。 ・校務支援システムやICT機器の効率的な活用により、業務のスリム化を促進する。	業務の効率化に向けた工夫改善について 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 50%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答	2	・指導者用タブレット端末の配布とWi-Fiの整備により、ICT機器を有効的に活用することができ、会議のペーパーレス化にも取り組むことができた。しかしながら、「業務の効率化」に対する肯定的意見は67.7%で、昨年度より2.3ポイント減少した。これは今年度の異動者が多く、学年や校務分掌の業務の業務について負担増となっていたことが要因と考えられる。引き続き、業務の見直しをすすめ、校務のICT化を図りたい。	・教員の異動等に影響を抑えるために、業務の水平化、共有化も取り入れては。 ・肯定的意見が67.7%で昨年度より低下しているとのことで一層の見直しが必要と思われます。 ・業務の効率化を進めるのは大切である。生徒の指導はしっかりと時間をかけてお願したい。 ・貴校のみならず、現状を変えないことを好む気質の組織は多い。一方で、働き方改革も含め、生産性向上は必須の課題であるため、教職員の職業観においてプラスになる面も訴求しながら意識を醸成することが必要。	B
	勤務状況	・ノー残業デーや最終退校時刻を設定し、早期帰宅の呼びかけを行う。 ・部活動の計画的な運営の啓発を行う。 ・在校等時間管理システムや、年2回実施の教職員面談を活用し、教職員自身の業務削減意識の向上を目指す。	時間外業務時間の前年度比が 4 90%以下 3 95%以下 2 100%以下 1 増加	1	・昨年度は部活動クラスターや行動制限による部活動停止期間があり、単純な比較はできないが、時間外業務時間は若干(0.4%)増加している。引き続き、ノー残業デーや早期帰宅の呼びかけを行い、教職員自身の業務削減意識が向上できるよう努める。	・アフターコロナに向けて、コロナ前と同様の活動が必須。 ・現実的に難しい部分もあると思われますが、教員の私生活の充実が業務にプラスとなることは間違いないと思いますので引き続きの推進をお願いします。 ・学校評価書の達成度11が気になる。 ・先生方の健康に気を配りながら、取り組んでいただきたいと思います。	C

5	学校評価総括(取組の成果と課題)	<p>【総務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部商生の「元気」を取り戻すべく、学校行事の実施に努めた。しかしながら、感染症の状況が目まぐるしく変化するなかでのどのような対応が適切であるか苦慮した。 ・コロナ禍のなかで、実質的に停止状態にあったPTA活動を再起動すべく努めた。幸いに保護者の方々の温かいご協力を頂くことができた。保護者の皆様の学校への関心の高さを感じるとともにPTA活動の必要性を再認識した。 <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの運用については、試行錯誤を重ねながら成績処理、指導要録、各種証明書等の発行ができるようになった。 ・ICT化により教室に電子黒板が設置され、授業における活用状況も活発になった。 ・学習面では、落ち着いた授業展開ができていく。朝の学習や10分間テストへの取り組みも積極的であり、基礎学力の醸成に役立っているものと思われる。 ・観点別評価については、導入初年度ではあったが、概ね対応できていた。 <p>【生徒部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立や校則の遵守においては、一定の成果が出ている。今後も教職員が連携し、共通理解に基づいた継続的な指導が必要である。 ・いじめに対する生徒の意識は高まっていると思われる。今後も未然防止のための取組の充実を図るとともに、早期発見、早期対応が重要である。 ・スクールカウンセラーによる助言が生徒や保護者の悩みの解決や教育活動に有効であった。しかし、不登校傾向の生徒が増加しており、アンケートや面談等による生徒の実態把握や教員間の情報共有の重要性を痛感した。さらにスクールカウンセラーをより身近に感じ、その重要性を知ってもらう必要がある。 ・人権教育や道徳教育については、教育活動全体で行うとともに、生徒の身近な課題を取り上げた講演会や体験活動を行った。これからは、家庭との連携を進めるためにも、情報発信をしっかりと行っていきたい。 <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員と数度の面談を行い、生徒の希望にあった就職先や進学先を紹介することができた。 ・国立大学を希望する生徒に対して小論文等の入試に対する意識付けを早期に行う必要がある。 <p>【保健体育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を見ると、持久系の種目で高い数値を出している反面、男女とも筋力や瞬発系の種目において低い傾向が見られる。 ・定期健康診断の事後措置として、眼科への受診は100%を達成しているが歯科への受診率が低いため、継続した指導を行う必要がある。 <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部商コレクションをとおして実践的な取り組みをおこなうことができた。学習意欲の向上、さらなる検定取得を促すことが課題である。 <p>【ICT担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や端末を有効に活用することができたが、より一層の活用のための研修の実施や校内体制の確立が今後の課題である。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と学年の連携を向上させることができた。引き続き、ICT機器の活用を促進し、業務のスリム化・平準化を進める。 ・部活動における感染症対策と計画的な運営が課題である。
---	------------------	--

6	次年度への改善策	<p>【総務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちのもっている活動への意欲を引き出せる魅力的な学校行事を立案し、生徒、教員がともに活動の喜びを共有できるよう努めたい。 ・保護者の方々の関心を学校に向けての努力をし、保護者と教員が協力しながら生徒を指導する体制ができるよう努めたい。 <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの運用については、微調整を行いながらスムーズに成績処理・出欠および指導要録等の管理ができるようにする。 ・個人用タブレット端末が配布も2年目となり、生徒の興味・関心を高める教材の開発や、授業展開が行われているが、さらなる有効活用について研究する必要がある。 ・家庭学習については、改善されたもののまだまだ不足しており、関係部署の協力を得ながら工夫していかねばならない。 ・観点別評価については、初年度の実施状況を考慮しながら整理し、改善していく必要がある。 <p>【生徒部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立や校則の遵守については、引き続き、全教職員が共通理解の上で指導できるよう情報共有を図ってきたい。 ・情報モラルの指導については、いじめの未然防止にもつながるため、指導を強化し、折に触れて教職員による指導を行うとともに、警察・携帯会社等の外部講師を招聘した講演等も行ってきたい。 ・スクールカウンセラー活用の推進を図るため、生徒部だけでなく、学年等と連携をして、生徒・保護者への情報発信を行ってきたい。 ・引き続き、アンケートを用いた生徒の実態把握を定期的に行うとともに、生徒の日常の小さなサインを見逃すことがないよう、学年と連携をとり、情報共有を密に行ってきたい。 <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対して小論文の指導等を早いうちから、体系的に取り組んでいきたい。 <p>【保健体育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中での体づくり運動、特に筋力の発達に必要な補強運動を継続的に取り入れる。 ・感染症対策において、新型コロナウイルスへの対応が段階的に移行していく中での対応をしっかりと理解し学校全体に共有していく。 ・定期健康診断の事後措置、特に歯科への受診指導を強化していく。 <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部商コレクションをどのように発展させるか、継続可能な形で検討する必要がある。また、生徒の学習意欲向上のためにどのような取り組みができるか商業科として考えて実行したい。 <p>【ICT担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一層の電子化を進めるとともに、対面的な活動もできる限り実施してきたい。生徒自ら課題を見つけ、解決できるよう手助けをしていきたい。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職と教職員の意思疎通を一層促進するとともに、教職員が学校改善に向けた協議を率直に行える組織作りを進める。 ・学校評価アンケートの結果をもとに、ICT機器の効率的な活用や業務の見直し、改善を通して、効率化を図る。 ・在校時間管理システムデータを活用し、個別の面談を実施して、教職員自身が業務削減意識を向上できるように努める。 ・感染症対策を組織的に、安全・安心な学校運営をめざす。
---	----------	--